

保健科学教育部

I	教育の水準	教育 6-2
II	質の向上度	教育 6-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1－1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度にがん看護専門看護師教育課程、平成23年度に養護教諭専修免許取得コース、平成24年度に助産学実践コースを設置するなど、看護領域の高度実践者の育成に取り組んでいる。
- 平成26年度から外国人教員を1名配置し、看護師免許取得後、米国の看護師免許取得を目指す「International Nursing Basic Course (INBC)」を看護学領域に設置している。また、平成27年度には「国際医療実践英語演習」を新設し、グローバルに活躍する医療者等の育成に取り組んでいる。

観点1－2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 生命科学研究を行う5教育部で共同開講している全専攻系共通カリキュラム科目と、保健科学教育部共通科目として、「保健学特論」、「チーム医療特論」等を設けている。
- 平成25年度に自習室を設け、情報機器の整備を行っている。また、e-learningでの開講、夜間講義、長期履修制度等の活用により、社会人学生の学習支援を行っている。
- 授業アンケートの結果、「授業の前後で予習・復習をしたか」についての5段階評価の平均点は、平成21年度の約2.6から平成27年度の約3.8となっている。

以上の状況等及び保健科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2－1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の受賞件数は、博士前期課程は平均2.2件、博士後期課程は平均1.3件となっている。

- 助産師免許国家試験合格率は、平成 25 年度以降 100%となっている。また、養護教諭専修免許取得者の養護教諭採用試験の合格率は、平成 23 年度以降 100%となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間の博士前期課程の就職希望者の就職率はおおむね 100%となっている。また、平成 22 年度及び平成 23 年度の博士後期課程の就職希望者の就職率は 100%となっている。
- 博士後期課程修了生のディプロマ・ポリシーの達成度について、「独創性と革新性のある研究を遂行する能力」等の 5 項目を達成したと回答した割合は、すべて 100%となっている。

以上の状況等及び保健科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度にがん看護専門看護師教育課程、平成 23 年度に養護教諭専修免許取得コース、平成 24 年度に助産学実践コースを設置するなど、看護領域の高度実践者を育成する教育体制を構築している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間の受賞件数は、博士前期課程は平均 2.2 件、博士後期課程は平均 1.3 件となっている。
- 助産師免許国家試験合格率は、平成 25 年度以降 100%となっている。また、養護教諭専修免許取得者の養護教諭採用試験の合格率は、平成 23 年度以降 100%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。